

資料展示会見学報告記録を書くこと

ー『医学図書館』誌オン・ザ・スポットへの投稿振り返りー

菅 修一

花園大学非常勤講師

発表者は『医学図書館』誌に多くの資料展示会報告記録を投稿している。本来、発表者は資料展示会を企画することに関心があり、大阪教育大学附属図書館勤務時の教科書展（1996, 1997年）、京都教育大学附属図書館勤務時の「戦友」の作詞者・真下飛泉に関する資料展示会（2005年）、滋賀医科大学附属図書館勤務時の「湖国の医史」展（2008年）などを企画した。職場の同僚の皆さんの協力を得ての作業、手作り図録冊子の作成、見学者への対応、を通じ、人との交流が広がることが魅力となったからであった。

その後、図書館実務の場から離れ、資料展示会を企画するチャンスを失ってしまった。ただ、縁あって『医学図書館』誌の編集委員となり、原稿を書くことを通じて資料展示会にアプローチしてみようと考えた。博物館、公文書館、時には図書館でも医学史関係の資料展示会は思いのほか開催されている。医学史関係の資料展示会情報を新聞紙面の展示会情報をチェックやインターネット上での検索により探し出し、資料展示会担当者にコンタクトを取った上で取材し原稿を作成、作成した原稿を資料展示会担当者の点検を受けたいうえで投稿している。

発表者が見学する展示会は地味なものが多く図録冊子が刊行されることは少ない。展示会場の解説掲示や展示資料につけられているキャプションを読むことで展示の趣旨や展示資料の詳細を知ることになる。知らなかった事実、知らなかった資料の存在を知らされることも多い。ただし、残念ながら資料展示会が終われば資料展示は撤去されて消えてしまう。

資料展示会担当者への取材により展示資料への理解が深まる。加えて担当者から参考にした資料や参考になるウェブサイトについての教示を受けることも多い。展示資料だけでなく、展示を理解するために有用な資料の存在を知ることが出来るのである。

図録冊子が刊行されない地味な資料展示会は記録に残さなければ、振り返る機会はほぼない。多くの資料の存在を示してくれる展示会があったことの記録を『医学図書館』誌に読み物として記録しておくことは資料の情報を記録することである。

展示会情報を探す手段が新聞催事情報チェック、インターネット上の検索のため、把握漏れもある。皆さんの地元で開催される医学史関係の資料展示会があれば、その情報を教えていただきたい（発表者のメールアドレス：ssugachi@yahoo.co.jp）。また、発表者も高齢者になり、手弁当の作業になるが記録することを引き継いでくれる方が現われることを望んでいる。（以前の職場の同僚や発表者の見学報告に感想をくださった方と共に取材し、『医学図書館』誌に投稿したケース、数例あり。）